

トヨコ通信

2010年10月

ホームページ <http://www.sasada-toyoko.jp/>
e-mail sanbal@sasada-toyoko.jp

発行 : 日本共産党笹田トヨコ後援会
発行日 : 2010年 10月 1日 第98号
連絡先 : 大垣市室本町5-8
日本共産党大垣市後援会
Tel 78-6865 Fax 73-8572

部内資料



「患者中心の医療」「良質な医療の提供」

病院理念を本当に実現するために

9月議会の一般質問では、市民病院に関する問題3件と、「保育職員の実態について」を取り上げました。その一部をお知らせします。

病診連携の現状について

大垣市民病院は急性期医療を担う病院で、治療が終了すれば、そのまま退院を進められます。しかし、在宅療養ができる状態でない患者さんもいて、不安を抱えての退院の人も多いと聞きます。市民病院は地域の医療機関と連携を図るため、開業医等の紹介患者さんの受け入れをすすめ、また治療終了の患者さんを地域の医療機関に紹介する「病診連携」を進めています。その現状を聞きました。

病診連携が提唱されて7年、確実に病診連携は進んでいます。(表参照)「当初は患者さんを放り出す状態だったが、今では退院時に情報が提供され、退院時カンファレンスに参加できる」と、受け入れ先の医療機関も歓迎しています。しかし、逆紹介の大半が在宅療養を支える地域の開業医で、病院への転院は少ない

病診連携(紹介率および逆紹介率)

	H20年5月	H20年11月	H21年5月	H21年11月	H22年3月
紹介率	33.2	35.5	41.1	42.3	42.4
逆紹介率	53.4	61.9	68.9	75.3	86.1

ということです。安心して在宅復帰をするためには、急性期医療の市民病院から回復期リハビリ病院や長期療養型病院を経て在宅に戻ることが望めます。しかし、西濃地域の長期療養病床を有する病院は16カ所です。市民病院の患者さんを受け入れる余地はほとんどなさそうです。また回復期リハビリ病床は博愛会の50床だけで、これも圧倒的に不足しています。厚労省の基準(人口10万人に対して50床)からみると、この西濃地域では200床必要です。

西濃地域に回復期リハ病床等の増床を

市民病院に関する委員会では病院長に対し、「回復期リハ病床など市民病院につくれとは言わないが西濃地域で充実させるようリーダーシップをとってほしい」と求めました。病院長も「回復期リハをはじめ長期療養や緩和ケアの病床について、医師会などと一緒に岐阜県に働きかけたい」という答弁でした。

救命救急センターの体制について

大垣市民病院の救命救急センターは、1次から3次までの救急患者さんを受け入れ、年間45,853人、1日平均125.5人の患者さんの診療にあたっています。現在救命救急センターの増改築工事が行われ、完成すると約4倍の広さ、病床数は現在の2倍の30床となります。



栗

今年は栗が不作です。金蝶堂さんの店頭に栗きんとんが並んでおらず、さみしく思います。

この規模に質・量ともにふさわしい医師や看護師の体制が整えられるか質問しました。答弁では、「平成24年の稼働に向けて、名古屋大学及び岐阜大学の両医学部に救命救急医の派遣を要請している、看護師については85名公募に対して55名内定、今後は九州・沖縄方面まで拡大して20名の2次募集を行っている」とのことでした。

研修医の指導体制は?

さらに、研修医の指導体制について質問しました。市民病院は毎年18名の研修医を受け入れ、研修の主要な分野として救命救急センターを位置付けています。答弁では「各診療科に臨床研修指導医を配置し指導に当たっている」、また「本年4月に臨床研修センターを設置し、9月にはNPO法人卒後臨床研修評価機構の定める臨床研修病院の認定を受けた」とのことでした。ただ、1次・2次の救急患者さんを最初に見るのが研修医でその指導については上級医がフォローすることになっているが、まだまだ課題は大きいと感じます。

保育園・幼稚園・幼保園職員の実態について

臨時職員の保育士がクラスを担当しているときいて、保育職員の実態について調べました。ここ数年、定年退職者だけでなく普通退職者が毎年10人以上あり、結果として臨時職員を増やして対応していたことが明らかになりました。

一般質問でこの問題について取り上げ、市当局も「危機感を持っており、早急に適正な正規職員数を確保する」、「本年は社会人経験者を含め19人採用、来年度も20人採用予定」ということでした。「クラス担任を正規職員で対応するには15人程度の正規職員の増員が必要で、4、5年かけて優秀な人材を確保していきたい」ということでした。

インフルエンザワクチン、妊婦・子どもは無料

従来からの季節性ワクチンに新型インフルワクチンを加えたもので、H22年10月1日より市が委託した医療機関で接種できます。市の助成による予防接種は以下の通り。

項目	対象	妊婦	0歳から 中学3年生の人	※65歳以上の人 (高齢者インフル エンザ予防接種)
接種費用	無料	無料	無料	1,500円
接種回数	1回	13歳未満=2回 13歳以上=1回	1回	1回

※60歳から65歳未満で心臓や腎臓、呼吸器に重い病気のある人(身障手帳1級に相当)も対象となります。
※生活保護世帯、非課税世帯の人は無料となります。
詳しくは保健センターでお聞きください。
電話：75-2322

小児および高齢者の肺炎球菌ワクチン 予防接種に助成を

今年2月より、小児の細菌性髄膜炎の原因となる肺炎球菌感染症のワクチンが予防接種できるようになりました。しかしワクチン接種には1回あたり9500円もかかり、若い世帯にとっては大きな負担になっています。ヒブ・ワクチン同様、小児用肺炎球菌ワクチンも市の助成対象にするよう求めています。

また、成人用肺炎球菌ワクチン予防接種の助成について毎年予算要望しているのですが、この成人用肺炎球菌ワクチンは、「1度摂取すると5年しか効果がなく2回目の接種が禁止されている」という理由でその運用効果が疑問視され、大垣市では助成対象から外していました。しかし、今年から2回接種が可能となり高齢者の肺炎防止に大きな力になると期待されています。多くの自治体で助成制度ができています。

是非大垣市でも、小児および成人の肺炎球菌ワクチンに助成制度を設けてほしいものです。

児童扶養手当、父子家庭にも支給

児童扶養手当法が改正され、今まで低所得の母子家庭に支給されていたのが、父子家庭にも支給されることになりました。

児童扶養手当は所得に応じて子ども一人当たり最大月額4万1720円支給され、2人目は5000円、3人目は3000円となります。

非正規労働者が増加し、年間の就労収入が300万円未満の父子家庭が4割近くに上るといわれ、父子家庭の貧困も大きな問題でした。

私は今まで市や国に対して、「父子家庭にも児童扶養手当を支給するよう」予算要望してきましたが、実現してうれしいです。

トヨコ通信100号!! 感謝の気持ちをこめて 松元ヒロ 爆笑ライブ in 大垣

トヨコ通信読者のみなさん、今度の12月号で100号となります。市議会議員となった時、まず市政を市民の皆さんにお知らせしようと思ったトヨコ通信です。8年に渡ってトヨコ通信を発行できたのは、読者のみなさんや作成から配布など多くの方の支えがあったからこそと痛感しています。感謝の気持ちをこめて、100号記念企画を行います。是非ご参加ください。



1部：笹田トヨコの市政報告
2部：松元ヒロ 爆笑ライブ

日時：11月23日(祝)
13:30~16:00
会場：ソフトピアジャパン
1階セミナーホール
協力券：1000円

※注意：笑いすぎて涙が出ますので、ハンカチをお忘れなく

訪問活動をしています



現在、支持者の方、支持者から紹介を受けた方のところを訪問して、笹田トヨコへの支持と「トヨコ通信」の購読をお願いしています。ぜひ、訪問先をご紹介ください。